

特 殊 報

長崎県病害虫防除所長

平成22年度病害虫発生予察 特殊報第1号

1 病害虫名 イネ南方黒すじ萎縮病(仮称)

2 病原菌名 Southern rice black - streaked dwarf virus(SRBSDV, 仮称)

3 発生作物 水稲

4 発生確認の経過

平成22年8月、諫早市の水稲圃場において株の萎縮症状を認めた。独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構九州沖縄農業研究センターにおける同定の結果、本県で未発生のSRBSDV(仮称)によるイネ南方黒すじ萎縮病(仮称)であることが確認された。本病害は、2001年にベトナム北部および中国南部で発生が初めて確認されたウイルス病である。本県では現在までに、主食用水稲及び飼料用水稲で発病を確認している。

5 感染植物

水稲の他、トウモロコシ、イヌビエ、ミズガヤツリで感染が確認されている。

6 症状及び被害

生育初期に感染すると株が萎縮する(図1)。葉は葉身および葉先がねじれ、激しい場合はらせん状になる(図2)。また葉色が濃くなり、葉脈が隆起する症状も認められる(図3)。

出穂期以降は、茎や葉鞘が青白くなって黒すじ化する。穂は矮小化し、不稔や籾の褐変、上位節からの異常な分枝、止葉の小葉化などの症状がみられる(図4)。

7 伝染方法

現在、セジロウンカ(図5)が本ウイルスを媒介することが確認されている。本ウイルスはレオウイルスに分類される。既知のレオウイルスは媒介虫によって永続的に媒介されるが、経卵伝染、汁液伝染、種子伝染及び土壌伝染しないことが知られている。

8 防除対策

(1) 生育初期に感染すると被害が大きくなるため、移植時に箱施薬剤を処理するなど、セジロウンカの防除を必ず行う。また防除薬剤は、セジロウンカに対して効果の高いものを選択する。

(2) 飼料用水稲では、用途に応じて「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」(稲発酵粗飼料推進協議会等編)もしくは「多収米栽培マニュアル」(農林水産省編)に沿って防除を行う。



図1 株の萎縮症状



図2 葉先のねじれ症状



図3 葉脈の隆起症状



図4 穂の矮小化 止葉の小葉化



図5 セジロウンカ

(図2, 3, 4 熊本県病害虫防除所原図)

(図1, 5 長崎県病害虫防除所原図)

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027